

## 2006年度運用基準表 装具・用具・器具、着用・使用区分（関東地区）

FOOTBALL OFFICIALS ASSOCIATION JAPAN  
EASTERN CONFERENCE

- 【注】1. この運用基準表記載対象外は「公式規則書」の記載通りの運用である。  
 2. アンダーライン：今年度の公式規則変更及び運用変更  
     ：運用基準についての補足（公式規則の追加、変更ではない。）

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則の内容説明 / 補足	(c)公式規則の内容徹底 / 遵守	(d)試合運営上の徹底事項
ユニフォーム (他の身につける衣類含む)		用具装具全般として「正当な装具を着用していない」あるいは「不正な装具を着用している」プレーヤーがいた場合、チーム・タイムアウトが課せられる。	<p>チーム創立に関わる記念章の取り付けは、大きさ（16平方インチ（約10.3平方cm）以下）・デザインを予め主管競技団体に提出し、承認を得ること。</p> <p>ジャージーの番号にはどのような縁取りをつけてもよいが、チームの全てのプレーヤーは同一デザインで、番号がはっきりと見分けられなければならない。</p> <p>プレーヤーまたは関係者が死亡したり重大な傷害・疾病の場合には、その個人の番号、名前またはイニシャルを直径1.5インチ（約38mm）以内の標章として、一つだけユニフォームまたはヘルメットにつけてもよい。</p> <p>プロ・リーグのロゴを禁止する。</p>	<p>次の2点以外のものを装着してはならない。</p> <p>1. ユニフォームに付けたタオル。        攻撃側の1名のインテリア・ラインマンは1枚の<b>水分を吸収する無地</b>の白いタオル(大きさの制限なし)をつけてよい。他のプレーヤーはベルトの<b>前面および側面</b>の位置に<b>4インチ×12インチ(10cm×30cm)</b>の1人につき1枚の<b>水分を吸収する無地</b>の白いタオルをつけてよい。  <u>社会人協会関東地区全チームXリーグ所定のタオルを使用する。</u></p> <p>2. 寒い天候のときのハンド・ウォーマ        以下の物は装着してはならない        ボールや相手に対しての付着効果を向上させるジャージー、アンダーシャツおよび腕のカバーやパッドの外面部</p>
ジャージー			<p>試合中、相手を惑わせるため、番号を変えてはならない。(15ヤード、ひどい者は資格没収)</p> <p>破れた(裂けた)ジャージーは着用できない。着替はチームエリアにて行う        テープを巻いてはならない。        袖口に裂け目を入れる等の改造をしてはならない。</p> <p><b>ジャージーはパンツの下にしまえるだけの十分な長さが必要であり、絶えずパンツの下にしまっておく必要がある</b>(1999年より適用)。</p> <p>白いジャージーには、脇の縫い目に最大4インチ(10cm)幅のカラーが使用できる。また、カラーのジャージーに白色を使用する場合は、プレーヤーの番号、番号の縁取り、プレーヤー名、チーム名、袖のストライプ、縁取り、脇の縫い目の一本線、標章のみに使用。(2000年より適用)。</p>	<p>破れた(裂けた)ジャージーの交換は、予め用意した同一の番号のジャージーが望ましい。やむを得ない場合は、控選手のジャージーとの交換は可とする。</p> <p>1. レフリーに申告し、承認を得ること。        2. レフリーは相手チームに伝達すると共に記録員、あるいは場内にアナウンスすることが望ましい。</p> <p>破れた(裂けた)ジャージーをテープ等で補修することは不可とする。        プレーの結果ジャージーがパンツから出たプレーヤーは、速やかに元に戻すこと。</p>

## 2006年度運用基準表 装具・用具・器具、着用・使用区分（関東地区）

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則の内容説明 / 補足	(c)公式規則の内容徹底 / 遵守	(d)試合運営上の徹底事項
パンツ			同一チームのプレーヤーは、同じカラーで同じデザインのパンツを着用しなければならない。同じチームで線が入ったり無かったりすることは許されない。 裾に裂け目を入れる等の改造をしてはならない。	<b>膝はどんな状態でも完全に覆われていること。</b> 膝を覆っていないパンツにサポーター等を装着しても認めない。
マウスピース、グローブやパッド類			<b>脛でい骨を保護するヒップパッドを装着する事。改造をしてはならない。</b> パンツ内に装着のニーパッド。 マウスピースはすべての上顎歯を覆っていないなければならない(奥を切ってはならない)。 グローブとは、手をぴったりと覆うもので、それぞれの指の部分が分離されており、それぞれの指を完全に覆っているもので、かつ指と指のあいだを連結させる余分なものがついていないものでありミトンタイプは禁止	<b>ヒップパッドはジャージの下に完全に覆われており外に露出していないこと。</b> 相手のジャージの色と類似したグローブや手のパッドを使用してはならない。 (故意かどうかを問わない) ゴム付軍手は使用可。
ヘルメット、フェイス・マスク			ヘルメットのデザインは同一であること。 全ての留め金を留める事。 フェイス・マスクは同一色であること。	番号をヘルメットに付ける場合は全員同じ場所に同じカラーで付けることとする。 アワードシールドは対象としない。
アイ・シールド	鑄造され硬い物質で作成された透明なもの以外のアイ・シールド《以下例外の削除》	従来までの例外を削除し、無色、透明なもののみとした。	透明のアイ・シールドのみ可。	
ニーブレス及びアングルブレス			パンツ・ソックス・テープ等で完全に覆うこと。 <b>ヒンジ等硬い部位を露出させない。ヒンジ等と身体の間隙を見せない。</b>	
ソックス及び足を覆う物			全ての選手は <b>色、デザイン及び長さが同一</b> の、見た目にわかるソックスまたは脚部を覆うものを着用しなければならない。 (例外：負傷部の保護あるいは負傷の予防のための改造がされてないニーブレス、テープ、及びバンデージ。素足のキッカー) ソックスがプレーの結果ルーズになっても不正な装具とはしない。	<b>スパッツを着用する場合には、プレーヤー全員が着用し同一色、同一デザイン</b> であること。(ソックスで完全に隠れる場合を除く) プレーの結果ソックスがルーズ等になったプレーヤーは速やかに元に戻すこと。 ソックスを折り返して着用する場合でも全員が同じように折り返して <b>同一デザイン</b> で <b>同一長さ</b> であることが必要。
バンドナ等			フィールド・オブ・プレーおよびエンドゾーンで、プレーヤーは外部から見えるバンドナを使用してはならない。	なお、規則の対象は、バンドナに限定されるが、試合における整然とした端正なユニフォーム、装具の着用のため、安全性の理由以外で、選手が頭部に鉢巻き、タオル、手ぬぐい等をフィールド(チームエリアを含む)で着用しないことを、各チームに強く要請する。

## 2006年度運用基準表 装具・用具・器具、着用・使用区分（関東地区）

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則の内容説明 / 補足	(c)公式規則の内容徹底 / 遵守	(d)試合運営上の徹底事項
通信手段等		<p>スポッター席については、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレスボックス内あるいは</li> <li>2. 両25YD間でスタジアムの最上段まで延長した範囲内のスタンドに設置することが望ましい。</li> </ol> <p>ローカルグラウンド等については、主管競技団体の運用規定等に従うこと。（従来通り）</p>	<p>無線装置を使用したフィールド上のプレーヤーとの交信は不可。</p> <p>次の機器の使用は可とする。（チームエリアとスポッター席間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘッドホン</li> <li>2. 無線装置（トランシーバー） 次の機器のコーチングを目的とした使用は不可。</li> <li>3. TV再生装置、モニター設備</li> <li>4. ビデオ・ビデオカメラ・カメラ・ポラロイドカメラ（チームエリア外で撮影したポラロイド写真の持ち込みを含む） ・映画・FAX・電話（携帯含む）</li> <li>5. 文書（絵図を含む）伝送機器</li> <li>6. コンピュータ 次の機器のチームエリアでの使用は不可。</li> <li>7. カメラ（TV含む全てのもの） ・拡声器・メガホン・マイク（商業・電波放送を目的としたものも含む）</li> </ol>	<p>左記1.2は、使用可能を規定したものである。電源の使用については、主管競技団体の運用規定に従うこと。</p> <p>次のものは、チームエリアには入れない。（カメラ等の使用・取材の禁止）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームカメラマン（ウーマン）</li> <li>2. 校内・社内新聞等広報担当者</li> <li>3. 学外・社外広報委託者主管競技団体の運用規定等に従うこと。</li> </ol>
その他		<p>ボール乾燥機器類をサイドラインの近くおよびチームエリアで使用することは禁止された。</p> <p>プレーヤー、交代選手、及び試合関係者（例：コーチ、トレーナー、マネージャー、審判員）は、審判員が任務を開始してからレフリーが試合の終了を宣告するまで、フィールドでたばこ製品（噛みタバコ）を使用してはならない。</p> <p>社会人協会関東地区の試合ではフィールドゴール時のキッキングティーの使用を禁止（P.A.T.を含む）する。</p> <p>X1に限っては協会が用意した試合球を用いる</p>	<p>チームエリア等の遵守</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コーチはコーチング・ライン（サイドラインから2ヤード外側）まで</li> <li>2. 選手（ユニフォームを着用している者）はリミット・ライン（サイドラインから4ヤード外側）まで チーム・タイムアウト以外、第1、2Q、第3、4Qのインターバル時も水の補給は可とする。</li> </ol> <p>チームエリアに入ることができるのは、規則どおりのユニフォームを着用した選手と、試合に直接関係のある最大60名までのチーム関係者となっている。「規則どおりのユニフォーム」とは、公式規則どおりの装具を着用し直ちにプレーが出来る状態にあるものをいう</p> <p>ユニフォームのデザインを変更する際には、事前に学生連盟及び社会人協会各事務局にデザイン案を提出すること。事務局は審判部に公式規則との整合性を確認した上でデザインの変更を承認する。</p>	<p>フィールドの周囲主管競技団体の運用規定に従うこと。特に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボールパーソン及びブスコアラはチームエリアを出てもよいが、プレーヤーに対する声援及びコーチを行ってはならない。</li> <li>2. 次の試合のチームはフィールドの周囲で試合の邪魔にならない練習を行っても良いが、小声のタイミング・コール以外の声を出してはならない。また、ホイッスルの使用は不可とする。</li> </ol> <p>荒天時、荒天が予想される時のボール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 合成皮革のボールはゴムボールと同じ扱いとする。</li> <li>2. 皮ボールとゴムボールを併用する場合、試合前の検査にそれぞれ6個まで出すことができる。</li> </ol> <p>チームエリアに入ることができるチーム関係者は、<b>役員証や選手証で対応する。</b></p> <p><b>【2008年度公式規則変更予定】</b></p> <p>(1) フィールドゴール時のティー使用禁止 2008年秋季公式戦から禁止される。</p> <p>(2) キッキング・ティーの規格変更 キックオフで使用するティーの高さは、2008年秋季公式戦から、「ボールの最下端からグラウンドまでが最大1インチ（約25mm）」となる。</p>